2015年8月12日　空調タイムス

新晃工業

新築案件堅調、更新も手堅く

広範囲の産業ニーズに応える

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長＝武田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1－4－5）が先ごろ発表した平成28年3月期第1四半期の決算状況によると、景気の緩やかな回復基調を背景に空調分野の需要は堅調な推移を示した。国内市場では省エネ空調機器などが販売を伸ばし、売上高は前年同期比5・6％増、セグメント利益同23・1％増という結果になった。関西地区では、オフィスビル、大学のキャンパス新設、大型商業施設といった新築案件が一定のボリュームを占め、同社も開拓営業を推進、成果を挙げている。また、需要の多くを占める更新案件については「これからの動向を注視している」（営業開発部長・稲川健氏）状況で今後、具体化してくる案件を「手堅く取り込む」（同）考え。

同社の幅広い製品構成の中で、産業空調分野では、排熱利用による省エネとして産業用低露点除湿空調機「デシコンドライ」がある。この領域でのラインアップは2系統あり、一般空調用では潜熱・顕熱分離デシカント空調機「デシコンエアSDA型」、コンパクト型デシカント空調機「AJ－SD型」、産業用では「デシコンドライSDD型」となっている。デシコンドライは、湿気を吸着するロータ（デシカントロータ）に空気を通過させ、乾燥空気を供給する乾式除湿システム。低温再生ロータを搭載している点が大きな特徴。デシカントロータに65度C程度の温風で再生できる高分子収着剤を採用し、従来、利用されずに捨てられていた低温の工場排熱をロータ再生に有効利用できる。二次電池、製薬、食品加工、半導体などの工場分野をはじめ、環境試験室、食品貯蔵・機械製品倉庫といった用途に適するが、最近では低温物流センター向けの納入事例も見られる。

データセンター（DC）の熱対策では電算型空調機（DE型）をメインに市場ニーズに対応している。電算型空調機にはベルト駆動型のDE－B10～30と直動運転型のDE－D10～30の2タイプがある。風量範囲は両タイプとも1万立方㍍から3万立方㍍。高い省エネ効果も求められるためプラグファンの搭載でニーズに対応する。同社のプラグファンはスパコン「京」の冷却システムへの採用で認められているもの。電算型空調機は屋外設置可能なコンパクトサイズのコンテナ型DCにも対応するなど守備範囲を広げている。さらに、高清浄度、汚染物質の除去、高効率・省エネのそれぞれについて高度なレベルの技術が求められるクリーンルーム用空調分野では外気処理用空調機を中核に幅広く対応、納入実績を積み上げている。

製品軸では外気処理用空調機、ドライコイルシリーズなどをラインアップ、用途、要求レベルに応じて最適な構成を提供する。外気処理用空調機は、年間を通じて安定した給気温湿度の供給、外気に含まれる塵埃・ガスの除去を行う。24時間運転に対応したベルトレス仕様、リミットロード特性を備えた2ファン搭載などにより、緊急時のバックアップ運転を実現し、多様な形態のクリーンルームに対応。ドライコイルシリーズはクリーンルーム内の生産機器からの熱負荷を、発生する箇所で顕熱冷却コントロールする。最適な熱交換を行うことで良好な環境を維持する。